

令和6年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業  
第3回 オンライン研修 実施報告書

■日 時: 令和6年8月28日(水) 14:00～16:00

■参加者: 28名

■進 行: 特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 風登 紀英

■タイムテーブル

時刻	内容
13:50	開始前アナウンス
14:00	開会
14:05	主催者あいさつ
14:10(50)	【マイ・タイムライン講習会】 「水害から命を守るマイ・タイムライン」 講師: 一般財団法人河川情報センター 有友春樹氏  質疑応答
15:00(30)	グループディスカッション
15:30	全体共有、質疑応答
15:55	まとめ *アンケート依頼
16:00	<終了>

【主催者挨拶】

一般財団法人自治体国際化協会

多文化共生部 多文化共生課長 滝澤 正和 氏

【講習会】

「水害から命を守るマイ・タイムライン」

講師: 一般財団法人河川情報センター 有友 春樹 氏



## (質疑応答)

Q.マイ・タイムラインがあるときの行動と、ない時の行動の動画を見せてもらったが、これは一般公開されているか。

A.ユーチューブで公開されている。「国土交通省下館河川事務所」で検索すると出てくるので確認して欲しい。また、最新版として芸人の「赤プル(茨城県出身)」さんが、少し補足説明して公開されているので、こちらも確認ください。

## 《グループディスカッションの共有》

### グループ1

マイ・タイムライン講習が各ステップに分かれていて分かりやすい。各自治体で実施している訓練に取り組んでいきたい。ハザードマップは慣れてないと行政職員でも説明が難しいと感じた。研修をする場合は事前に防災情報やツールに慣れておく必要がある。

外国人の方と一緒に町に出て、フィールドワークしながら避難経路を考える取り組みも良いのではないかと意見があった。外国人のキーパーソンに防災リーダーになってもらうなど、人材育成が必要。

### グループ2

昨年度も同研修に参加して知っている人もいて、実際にマイ・タイムライン研修を実施したが、外国人に広げることの難しさを感じている。

マイ・タイムラインの研修を受けるときは、ハザードマップ等事前に防災知識が必要となる。外国人に情報が届かないなど課題があるため、外国人のリーダーに使い方を覚えてもらって広めてもらう。

新たに研修を開くのではなく、日本語教室などの既存のイベント内で研修するのも良いのではないかと。アプリやツールの使い方など参考になった。

### グループ3

マイ・タイムラインは、先ず自分がやってみてから外国人に研修するのが良い。クレアのやさしい日本語バージョンはふりがなも使用しているので、日本人でもわかりやすい。

新たに研修会を開催するのではなく、既存のイベントの中で周知するのが良い。ハザードマップを知らない人が多いので先ずはこの周知と、普段から使用することが大事。

外国人への研修の他、町内会の人に集まってもらい在住外国人のことを知ってもらう取り組みを実践している協会があった。

先日の南海トラフ地震では、用意していた災害対応テンプレートが少なかった。対応マニュアルが分厚くてスムーズに使えなかった。

留学生など1、2年で帰国する人に訓練しても無駄だという考えもあったが、次に来る留学生に伝えてもらうことで無駄にはならないと思う。

### グループ4

マイ・タイムラインを県域で広げる難しさを感じる。「国際」や「外国人」とつくと防災担当部署を飛ばして国際交流協会に相談がくる。対応できるように情報を収集する必要がある。

グループ内では防災訓練の開催や、メルマガで情報を発信するなどしている協会があった。訓練に逃げキットを取り入れたり、ツールを使って体験型の訓練を実施し、外国人ネットワークを使ってマイ・タイムラインを広げていきたい。

## グループ5

グループ内で昨年のマイ・タイムラインに参加した方がいて、実際に訓練で実施したが、外国人へ理解されにくかった。今回のマイ・タイムラインは各ステップに分かれており、分かりやすい。

外国人への広げ方や周知の仕方などが課題。日本人でも知らない人が多いので、まずは我々がやってみることが大事。

避難するところはペットが一緒でも大丈夫なのかなどの情報はどこから得られるのか、事前に調べて情報を伝えられるようにする。

協会だけで訓練するよりも、複数の協会や他団体などと連携して訓練してはどうかと意見が出た。防災リーダーの訓練や宿泊訓練など実施している協会があるのでやってみたい。

## グループ6

マイ・タイムラインを知らなかった人が多かった。日本人でも難しいと思うので、事前に準備が必要であること、ハザードマップなど防災情報についてマイ・タイムラインを通じて知ってもらう。

研修会など開催すると集客が難しい。防災施設を利用するなど普段できない内容や体験型訓練にして、参加したいと思える工夫をする。

自分たちだけで実施するのは難しいので、普段から他部署など外部とつながる必要を感じた。

## 【閉会】

【参加団体一覧】

地域ブロック	都道府県	団体名	参加者数
東北	宮城県	(公財)仙台観光国際協会	1名
		仙台市文化観光局交流企画課	1名
関東	茨城県	(公財)茨城県国際交流協会	1名
	栃木県	栃木県県民協働推進課	1名
	千葉県	鴨川市市民生活課	1名
	長野県	長野県県民政策課	1名
	神奈川県	(公財)かながわ国際交流財団	1名
		神奈川県国際課	1名
		藤沢市人権男女共同平和国際課	1名
山梨県	山梨県男女共同参画・外国人活躍推進課	1名	
東海・北陸	石川県	能美市国際交流協会	1名
	福井県	(公財)福井県国際交流協会	1名
	静岡県	(一財)静岡市国際交流協会	1名
	三重県	(公財)三重県国際交流財団	1名
近畿	京都府	(公財)京都市国際交流協会	1名
	大阪府	(公財)大阪国際交流センター	2名
	兵庫県	(公財)神戸国際コミュニティセンター	1名
中国・四国	鳥取県	(公財)鳥取県国際交流財団	1名
	広島県	(公財)広島平和文化センター国際市民交流課	1名
		呉市国際交流協会	1名
	山口県	(公財)山口県国際交流協会	1名
	香川県	香川県	1名
		(公益)香川県国際交流協会	1名
愛媛県	(公財)愛媛県国際交流協会	1名	
九州	長崎県	(公財)長崎県国際交流協会	1名
	大分県	大分県国際政策課	1名
		大分市企画部国際課	1名

令和6年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業  
第3回 オンライン研修 実施報告書(アンケート) 回答:16人

あなたのことについて教えてください。

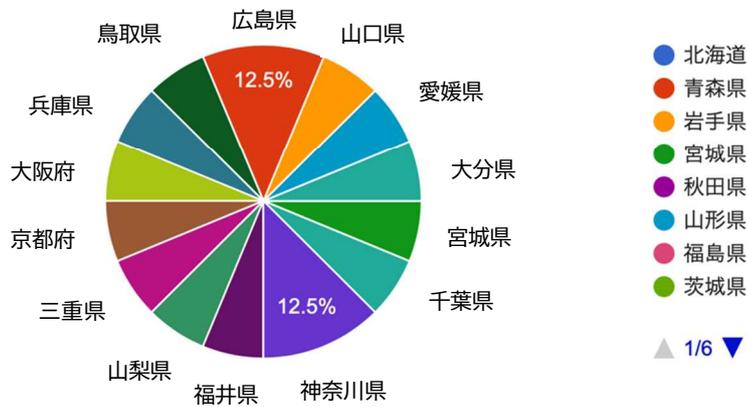
Q1. 所属団体・部署等 (選択式)

16件の回答



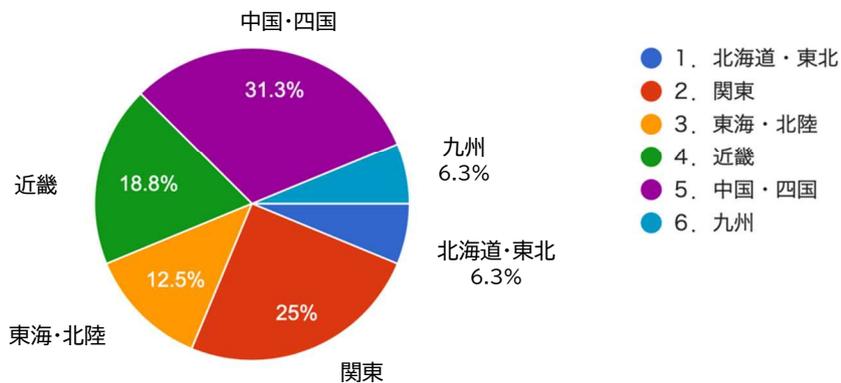
Q2. 都道府県 (選択式)

16件の回答



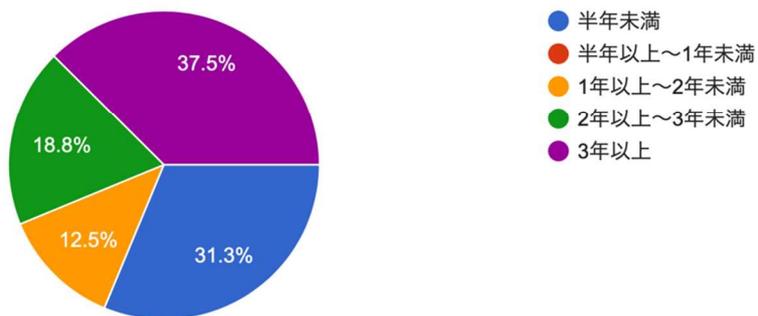
### Q3. ブロック（選択式）

16件の回答



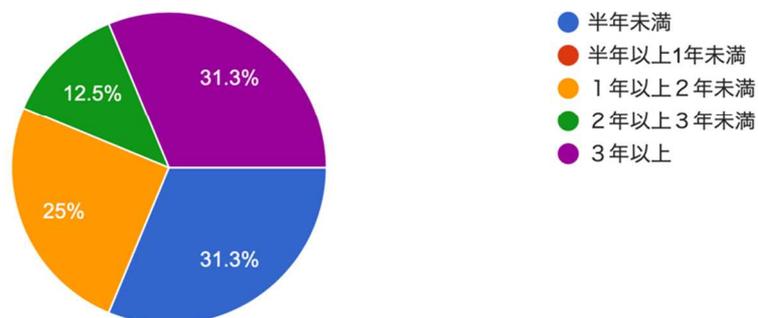
### Q4. 多文化共生関連事業の経験年数（選択式）

16件の回答



### Q5. 災害時外国人支援関連事業の経験年数（選択式）

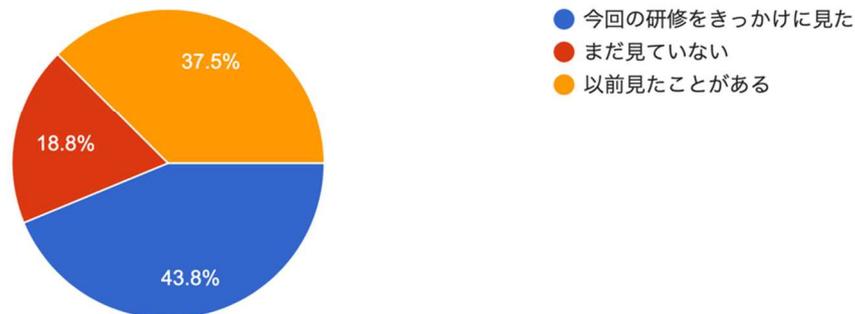
16件の回答



## 2. 研修を受講してのご感想等を教えてください。

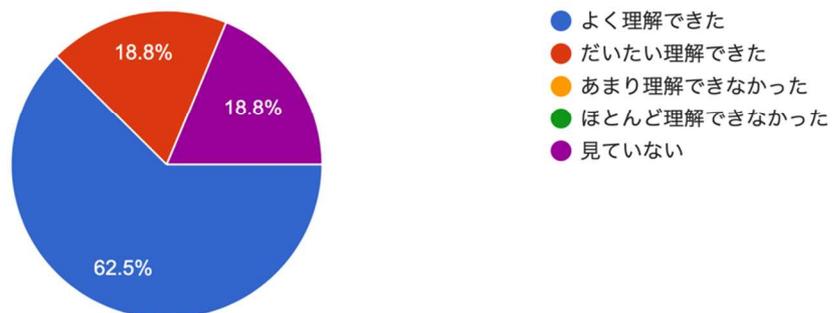
### Q6-1. 基礎講義動画をご覧になりましたか？（選択式）

16件の回答



### Q6-2. 基礎講義動画の内容は、ご理解いただけましたか？（選択式）

16件の回答

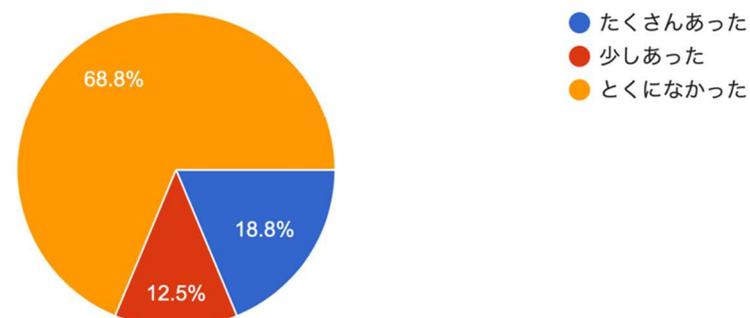


Q6-3.「Q6-2」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

【回答無し】

### Q7-1. 基礎講義の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？（選択式）

16件の回答

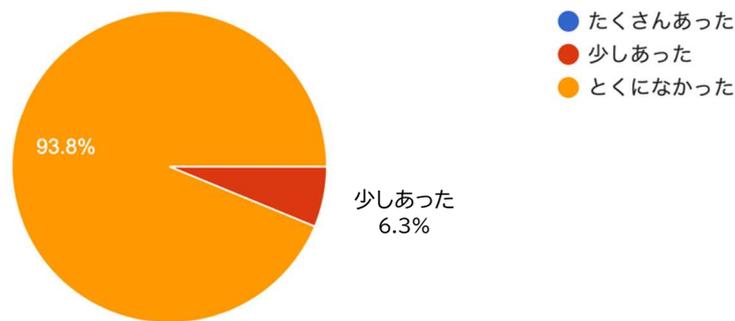


Q7-2.「Q7-1」で、「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- 例えば、外国人住民が日本人住民よりも避難所に行かないということ、自宅付近の山が土砂災害特別警戒区域に指定されていること、などです。
- 消防団は公務員なのに外国人の消防団員が増えていることをはじめて知った。
- 防災リーダー育成という取り組みについて知りました。イスラム教の被災者への対応、ハラールフードなどの話が参考にさせていただきます。

Q8-1. 基礎講義動画の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

16件の回答

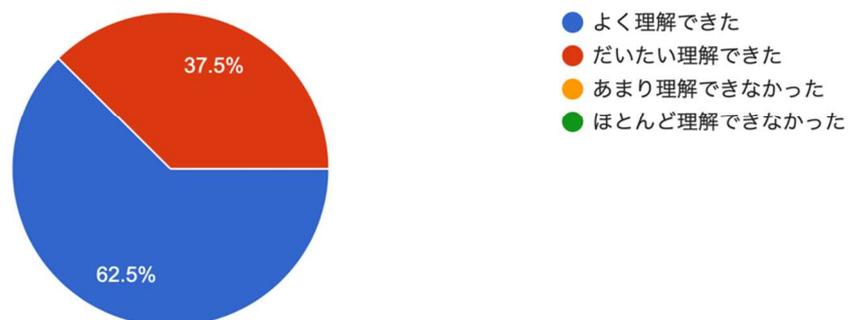


Q8-2「Q.8-1」で「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

【回答無し】

Q9-1. マイ・タイムライン講習会の内容は、ご理解いただけましたか？

16件の回答



Q9-2.「Q9-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

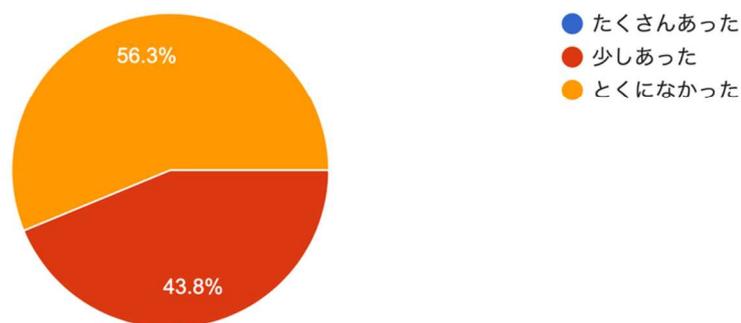
【回答無し】

Q9-3.「Q9-1」で、「よく理解できた」「だいたい理解できた」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- マイ・タイムラインの意義と作成方法
- 使い方
- 外国人に対して周知するより以前に、自分自身のことを確認して体験として知っておくことが大事だと感じました。
- マイ・タイムラインについて
- マイ・タイムラインの詳細や使い方、ハザードマップについて、事前に確認しておくことや備えておくことの重要性など。
- わかりやすく説明されていたため、よく理解できた
- 逃げ遅れないように事前準備が大事だと思います。
- 作成フロー、作成にかかるハザードマップでの確認事項について理解できた。

Q10-1.

マイ・タイムライン講習会の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか  
16件の回答



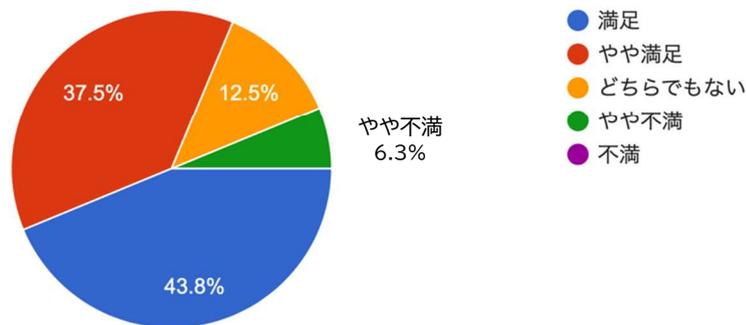
10-2.「Q.10-1」で「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- マイ・タイムラインの、日本人への周知度や普及率は如何ほどでしょうか。私は2年前まで自治体で働いており、防災の担当でもありましたが、マイ・タイムラインについては寡聞にして存じ上げませんでした。国際協会に参ってから存在を知った次第です。国際化分野ではトピックの一つのようですが、日本人への普及が進んでいないのであれば、忙しい外国人住民の方々から見れば、無駄ではないと理解してもらえたとしても、実際的な必要性に疑問を感じるのではないのでしょうか。各自治体と連携しながら、まずは日本人への普及を進めていただければ幸いです。
- ハザードマップを利用したマイ・タイムラインづくりは、不確定要素があると思った。
- 参加者にチェックシートを書いてもらうとき、それぞれの参加者の在住する地域のハザードマップの準備が必要。地域別(例:自治会単位)でやったほうが効果的かと思った(PPTで画像を見せながら説明を進むなど)。

ハザードマップ、気象情報、避難情報など日本人でも理解していないことをどのように外国人に伝えることができるのかとは思った。

### Q11-1. 第3回オンライン研修全体を通じての満足度をご回答ください

16件の回答



Q11-2. Q11-1 の回答の理由や第3回オンライン研修全体を通じてのご意見や感想をお聞かせください

- 他団体の方との意見交換を通じて、他都市の取り組みや課題などを知り共有できたので良かったです。
- 勉強になりました
- もう少し「外国人支援に従事する関係者向け」の内容を期待していたが、マイ・タイムラインの作り方の説明に時間が割かれており各個人の心構えの側面が強かった気がしました。ただ、マイ・タイムラインを外国人の方と実際に作成するような場面を設けられたら、今回の研修が活かせると思います。
- とても参考になりました。
- 私のところは、まだ災害対応では遅れているので、グループディスカッションの中で他県との情報交換ができることがとても有意義だった。
- 大変有意義な情報をたくさんいただき、ありがとうございました。グループディスカッションでそれぞれの地域の状況や取り組んでいることについてわかり、交流もできました。また、機会がありましたら別の研修に参加したいと思います。
- 今回はマイ・タイムラインの作成方法について主にご説明いただきましたが、後半に共有いただいた「日本語教室の先生を対象とした講習会」等、いかに外国につながる市民に広めていくかといった周知方法に関する説明時間を長くとってもよかったように思いました。
- 非常に分かりやすく、良かったです。ありがとうございます。

Q12. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において、取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- 災害時言語ボランティアや外国人防災リーダーの募集・維持・活動について(具体的な活動報告を含む。札幌のSAFE など)
- インバウンド需要が高まる中においては、外国人観光客に対する支援についても取り上げると良いと思います。
- 情報発信 (外国人コミュニティ インフルエンサーの活用方法)

- 避難場の設置について、避難生活の具体例、防災リーダー育成について
- 他部署・他機関との連絡調整(他課、県、市、国際交流会、語学ボランティア)の事例紹介
- 対象がコーディネーターになる都道府県の方々の方々のようです。都道府県が理想とするレベルまで市町村または市民を押し上げるために、市町村との連携が不可欠だと思います。まず、市町村と連携するための研修を取り入れる必要があると思います。市町村がやっていることがわからない。やってくれないなどということは、災害時には致命的ですので日頃から、県と市町村の顔の見える関係を築くには、どうしたらよいか、都道府県レベルで研修した方がいいです。隣の芝生が青く見えてしまっているのかもしれませんが、佐賀県の佐賀県国際交流協会と市町村との連携が素晴らしく見えて仕方ありません。

以上